

## コミュニティにおける母子の健全育成 に関する実験的研究

研究第8部 星 美智子  
湯川 礼子  
<共同研究者> 菊地 汎子  
(横浜市乳幼児家庭教育センター主事)

### I 研究目的

生活様式が都市化し、核家族化した現在、母親たちは孤立して育児不安におちいっている。一方、子どもたちもまた、遊び場所と遊びの時間を、うばわれて孤立している。このような状況のなかで母子の健全育成のために地域の結びつきが、改めて重要視されるようになった。本研究では、コミュニティづくりの有効な条件について、実際の組織づくりを指導しながらその経過を分析して検討することとした。

### II 研究方法

① 3歳児の母親30人を対象として母親学級を企画する。同地域から3名づつ一組とし、さらに近い地域二組をひとつとして5グループを構成する。乳幼児家庭教育センターを母体としてよびかける(以前に電話の育児相談をうけたもののリストから選び、文書で勧誘する)。② 母親学級は乳幼児家庭教育センターを教室とし、午前10時から12時まで、隔週に1回づつ計8回開催する。講義や実習のプログラムですすめ毎回グループごとに討議する時間を設ける。また次回までのグループ単位の宿題を用意し、地域のメンバーたちが話しあわなければならない機会をつくる。③ 学級開催中、およびその後の地域でのグループづくりに助力しながら、母親たちの結びつきの経過を記録し、アンケートによる意見調査、討議をおこなう。④ 子どもたちは母とはなれた別室で保育し、集団あそびの経験を与える。⑤ 日時 1975年4月、対象の選択と組織づくり、学級開催の計画の検討をする。6月より9月まで母親学級開催。1976年3月まで、学級参加者のその後のグループづくりの助力と調査をおこなう。

### III 母親学級開催経過

(1) 地域別の呼びかけ。

すでに乳幼児家庭教育センターの面接相談、電話相談を利用している第1子が3歳児の母親に、自分の地域内の3歳児の母親をさそい、3名で母親学級に申込みよう案内をおくる。各地域メンバーをさらに近い地域をまとめて4つのグループをつくる。

(2) メンバー構成とリーダー

母親のグループごとに乳幼児家庭教育センターの相談員がひとりづつリーダーとして、話しあいのすすめ方、グループのメンバー間の交流や課題達成について援助していく。学級内にとどまらず地域での問題にも相談にのり、地域での組織づくりの支えとなるように努力する。また、メンバー各自の意見をまとめたり、グループの形成過程を毎回記録していく。毎回学級終了後、リーダーは各グループの報告をもちり、乳幼児教育センター主事をスーパーバイザーとして、検討会をもち、次回の打合せをおこなう(幼児担当の保育責任者も参加する)。

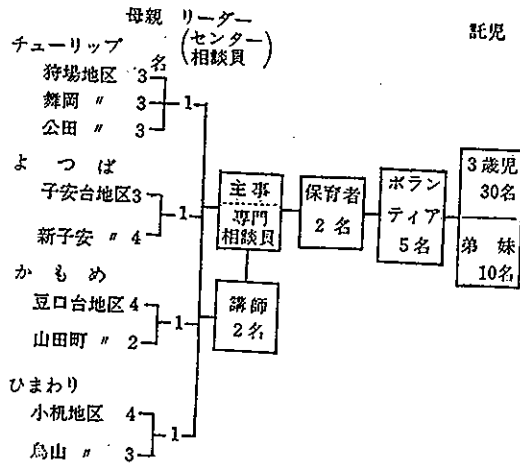
(3) 子どもの保育

母親が学級に参加しているあいだ、3歳児は別室で集団あそびを経験させる。1~2歳の弟や妹も一緒に預かり、乳児は幼児と別室で預かる。子どもの保育には、保育責任者2名(保育専門職のもの)とボランティアの母親(自分の子どもたちは小中学生で母の手をはなれている)数名がこれにあたる。

(4) プログラム

いわゆる講習会や母親講座の形をとらず、各自が地域で互いに交流を深められるように、隔週に学級を開催し、地域ごとでまとめる宿題を課する。要望があればリーダーは地域へ出向いて相談にのる。また、プログラム内容は学級終了後も子どもを育てる力となっていくように、母親の考え方、子どもの見方、子どもとのあそび方を中心にした講義や実習とする。具体的にはつぎのようになる。

○メンバー構成とリーダー〔Ⅲ, (2)〕



○プログラム〔Ⅲ, (4)〕

月日	課題	内容	ホーム学習	託児
第1回 6月4日	学級のすすめ方	<ul style="list-style-type: none"> <li>開講の挨拶</li> <li>学級趣旨説明</li> <li>先生のお話「3歳児の特徴」</li> <li>グループの話し合い</li> </ul>	私の子どもをみてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>30分おかあさんといっしょ</li> <li>おやつ</li> </ul>
第2回 6月18日	心身の発達とあそび	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生のお話と話し合い</li> <li>表「私の子どもをみてみよう」</li> </ul>	手づくりおもちゃの準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>おあそび</li> <li>おやつ</li> </ul>
第3回 7月7日	あそびづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>おかあさんの手づくりおもちゃをつくってみよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>おあそび</li> <li>おやつ</li> </ul>
第4回 7月16日	おやつづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>おやつのか考え方</li> <li>つくってみよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>おあそび</li> <li>おかあさんといっしょ</li> </ul>
第5回 8月6日	センターからの通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣</li> <li>遊びの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でのしつけ</li> <li>遊びの工夫</li> <li>アンケート</li> </ul>	
第6回 8月20日	センターからの通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>からだの健康のアンケート</li> </ul>	
第7回 9月3日	心とからだの健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生のお話と話し合い</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>おあそび</li> <li>おやつ</li> </ul>
第8回 9月17日	健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子で体操をしましょう</li> <li>話し合い</li> <li>開講の挨拶</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>おかあさんといっしょ</li> </ul>

(6) 一日の時間割

母親の方は、まずセンター側から、前回のこと(母親のホーム学習や子どもの託児室の報告)について話しがある。つぎにグループ別の討議、各グループの発表、つぎに講義あるいは実習、そのあとセンター側(リーダー)

から次回へのオリエンテーション、再びグループ討議。以上が1日の日課である。

子どもはその間、10時から12時まで、母と別室で集団あそびをする。

その日の午後リーダー、託児担当者の集会をもち、

当日の報告と反省、次回の打合せをおこなう。

この実際の時間割例をしめすと、つぎようになる。

学級学習計画（第2回—6月18日の例）

6月18日	テーマ	心身の発達とあそび	H. M 先生	T. N 先生
教材・準備	すすめかた		託児	準備
○名簿	託児の注意点	15分	10	音楽
○マイク	グループ討議 (表による話し合い)	20分	10:15 10:35	
	発表	15分	10:50	机、座ぶとん
	身心の発達とあそび (H先生のお話)	40分	11:30 11:35 11:35	
	次回のあそびについての オリエンテーション	5分	11:35	
	グループ討議	25分	12:00	
	さようなら	.....		
ホーム学習	用意してくるもの のり、ハサミ、包装紙	あそびづくりの準備	おやつ おせんべ、ビスケット(3枚) バナナ(半本) 麦茶	

◆グループのすすめかた（リーダー留意点）

私の子どもをみてみようの表をみての話し合い

- グループ発表する人をきめる
- 表をつくってみて気づいたことを出し合ってみる



いくつか整理して発表する人に助言をする

先生のお話から

遊びの概念をしっかり把握する

前回のお話とつなげて……

疑問、質問まとめてみる

グループの中で解決したことはなるべく細く記録しておく

次回に用意してくるものについて確認をする  
かえりの誘導のしかた

◆託児の留意点

- 窓ワク……開かないように工夫すること  
材木やさん、材料

- コップはセンターのを使用する
- 下駄箱……はじめにカギを出してしまう
- おかえりの誘導

託児の注意

- センターでつくった遊具の考えかた
- 親ばなれを上手に  
あそびづくりのオリエンテーション

(6) ホーム学習・通信による学習

われわれは母親学級参加者に受け身でなく、積極的姿勢をもたせるため、また、地域の組織づくりの土台となるよう互いに話し合いをさせるために、ホーム学習として次回までに地域グループでおこなう宿題をホーム学習として課すこととした。また、8月は2回にわたって通信による学習を加えた（末尾、付1～3参照）。

(7) アンケート調査

第1回（6月）「子どもの理想像、学級への要望」第2

回（8月）「母親学級に参加して」、第3回（9月）「学級を修了して」、第4回（翌年3月）「その後の地域での活動」、以上、4度にわたり母親に質問紙を配って意見を求めた。結果は次の項で検討する。

(8) 記録例

学級開催の経過を明らかにするため、ひとつのグループの記録をつぎにあげる。（ひまわり、よつば、かもめ、チューリップの4グループのうち、チューリップ組の例である）。

記録例 (チューリップ・グループ)

第1回

日時 6月4日(水) AM 10:30~12:00まで

学級生

- 狩場地区 O.Y. T.A. 欠S.R.
- 舞岡地区 Y.R. K.U. W.R.
- 公田地区 N.T. 欠M.S. I.S.

〔1〕お互いの紹介

グループの人々をよくおぼえるために、家族構成や、子供の男女別、特徴、(よい所も)交通機関、町の様子など紹介するよう説明。先づ世話役の私が自己紹介、次に

O.Y. 住いは保土ヶ谷駅よりバスで10分位社宅等比較的多い場所で山の上にある、センターへはバスできた、子供は女の子2人で年子、上の子は大変注意深い子、強情な所もある、妹の方は甘ったれで困っている。

T.A. O.Y.さんと同じ社宅に住んでいる、子供は小学生(1年)の兄と英子ちゃんの2人、甘ったれである。

Y.R. 戸塚駅よりバスで10分、山を切り開いた分譲地の中にタバコを主に、商店をしている。主人は会社員で主婦が店番をする。子供は姉が1人、小学校3年と泰一が大変元気よく外で遊び、遠出もする。怪獣が大好き。

K.U. Y.R.さんと同じ分譲地の中に住んでいる。兄(中学1年)を過保護に育てすぎ、自主性のない子にした経験から、兄と離れた子に育てたいと思っている。女の子のせいか社交性があり、その上おてんばである。

W.R. Y.R.さん達と同じ分譲地、4月2日生れで体格も大きく特に問題もない。姉(小学校1年)がいる。外遊びが大好きで食事も何でも良く食べ健康そのもの、間食は果物を午後1回程度お母さんは幼児教育モニターをしている。

N.T. 本郷地区に入るが、山を切り開いた分譲地内に住んでいる。年令が比較的高い家庭が多く小さな子が少ないと思い込んでいたが、センターからのさそいで、思いがけなくよい友人を得て感謝している。子供は姉(小学校1年)がいる。

〔2〕グループ名

リボンが赤なので赤にちなんだものを考えてもらおう  
赤トンボ、ポスト、チューリップ

子供も覚え易いようにチューリップと名付ける。

〔3〕3人単位の連絡代表をきめる

狩場地区 O.Y. 舞岡地区 K.U.  
公田地区 N.T.

〔4〕次回の準備

30分だけ子供を観察する。2週間中の1日、その時グループで集い(3人)集計する。注意として30分はこま切れでなく、30分持続ということ。ありのままをこまかくだしてほしい。5分きざみになるかも知れないし、15分位持続するかも知れない等、まとめた集計は次回持参すること。

〔5〕おやつ希望

大変食欲があり、家庭でも10時は与えていないので軽く与えてほしい。出来れば果物、飲み物程度、甘いもの、アメ、チョコレート等はやめてほしい。麦茶にも砂糖は入れないでほしい。

朝食が早い(7時)ので、10時頃家庭でおやつを与えている、今日泣いたのもおやつ持参で出かけてきたが、食べることが出来なくて泣きだし、それが、きっかけで泣きっぱなしだったように思う。託児のおやつは1回量が随分多いように思う。もう少し時間を早くしてもらいたい。

<リーダー>

これに対し、少し時間はずれるが、今日おやつを食べたおやつの出ることが、子供もわかれば、今度は理解できるのではないか。帰ってからの様子もみて下さい。

〔6〕H先生のおはなしの感想

O.Y. …けんかを恐れないということは、今まで考えなかった事で面白く伺った。

T.A. …同感だが、すぐ相手の親を意識してしまう。

W.R. …親の顔をすぐみるが、自分が押えすぎていたか

Y.R. …友達と仲良く長く遊ぶ子になってもらいたい

N.T. …お友達が特にいなくても、一人で遊び、乗り物の中でもちっとしておとなしい子だが、どうなんでしょう。

以上

<リーダーの感想>

大変時間が短く、与えられた30分をどう配分したらよいか、考えていたのだが、自己紹介でかなり時間をとり、H先生の話の感想は充分にきくことが出来なかった。グループの中ではO.Y.さんの下のお子さん(2歳)が時々ぐずり、殆んどお母さんのそば。N.T.のお子さんが、よく泣いてお母さんの膝へ、他のお子さん方は、一度も顔をみせず、お母さん方もおちついていて。一人一人が自分なりの考えをもち、どの方もしっかりした家

庭生活を営んでおられるようにお見受けして、リーダーの私の方が、少しタジタジする思い。次回の子供の観察集計が、待ち遠しい。託児報告が入り口で行われたが、グループの中央或は正面で行われれば、はっきりしたように思う。チューリップグループは正面演壇に近くよく聞きとれたが、全体に声の通りが悪かったのではないか。欠席の人々への宿題、及び学習の報告は各地域連絡代表者へお願いする。

6.4 記 S.

第2回

日時 6月18日(水) AM 10:30~12:00

出席7名 欠席2名 T.A., Y.R.

●ホーム学習の報告(私の子どもをみてみよう)。

〔舞岡地区〕

1. 種類

- メジャーで?cm ?cmと計っている。
- バッターり ○ボールあてっこ ○ままごと
- 色々の色を並べている。色によって男、女と分けている ○ブランコのり(電車になったり、かんらん車になったり、光号になったり、いろんな物になる)。

2. 気がつかなかったこと

- 友達同志よくゆづりあっているということ。
- 何でもあげることが好きだと思っていたが、一番大切にしている物(現在)はイヤダといい切っている。
- 弱い子と思っていたが、つつかれてもころばされても泣かない。大きい子(小学生)とも1人前のつもりであそんでいる。

3. 話しあったこと

- 物事の善悪を、はっきりわきまえる子供になってほしい。
- 交通事故について、交通ルールを身につけさせる必要性

〔公田地区〕

1. 種類

- 自転車のり——のったり、おりたりブレーキをかけたり、さまざま
- 虫かごと虫とり
- ダンボールに入ったり出たり、とんだり、はねたり

2. 気がつかなかったこと

- 外あそびは限りないが、室内あそびはすぐあきる
- 室内ではよく質問する。1つの道具でもいろいろあそぶ

3. 話しあったこと

- 学級がきっかけで友達のところにもあそびにゆけるようになった。

- 親が子供に口だしをしすぎるのではなからうか。

〔狩場地区〕

1. 種類

- 三輪車、○ブランコ、○すべり台、○なわとび、○棒のぼり、○絵をかく、○鉄棒

2. 今まで気がつかなかったこと

- 男の子のあそびに比べ、女の子のあそびは、時間が短かく、多種類であること。
- 目的のためには長時間待つことが出来ること(10分)
- あそびづかされると集中力がなくなる。

3. 話しあったこと

- 時間帯によってあそびの種類がちがうこと。

※グループ代表としてO.Y.さんに発表をお願いする

●謝儀のあとの話しあい

W.R. 頭からおさえつけるのをやめてみたら逆に素直にきくような気がする。

K.U. 今までばく然とながめていたのが、ちょっと注意して眺めてみると、子供の良い面もみえてくるように思う。大きな人たちとも平気について行き、心配なこともある。

N.T. 家の中ばかりで一人あそびをしていたのが、こんどがきっかけで、友達のところに行けるようになった。

じっくりあそぶのだが、種類が少ない、片寄りがち、よく泣くので気になる。

O.Y. 個性が強いのか、友達のお好きらしいが多いように思うが、大きい子とあそぶのが好き

I.S. 家でも大きい子とあそぶのが好き

<リーダーの感想>  
大きい子はあそんでくれるので、安心なのでしょうが、友達のお好きらしいは、母親の方で友達選びをしていないかどうか。(S)

M.S. 今日のはじめて団体生活に子供を入れてみて、自分の育て方が、どうもまちがっていたのではないかと、深く反省している。いつも車ばかり外出していたので、こんなに歩かせた(桜木町センター)のはじめてのようと思う。創造性を養うために子供と一緒に何かをはじめても、つい私の方が夢中になってしまう。おやつも必ず10時に与えていたら今日はその要求もあって、私の所へきてはぐづっていました。

このあとグループでの話し合いの結果は、質問の形でH先生にだして、解答していただく。

●手袋人形について説明

<リーダーの感想>

宿題の『私の子どもをみてみよう』も、それぞれにただ眺めていたのが、注意して観察してみるとこんなことも出来るのだ、意外にしっかりしているという子供のいい面がみられて、よかったようだった。

グループで解決すべき話し合いが途中でH先生への質問の形になり、お母さん方は他のグループからだされた問題なども伺えたり、H先生のアドバイスもきけたりで、満足したように思ったが、もっと時間があれば、お母さんたちだけで、充分話しあい、解決とまで行かなくても、考えを残し、グループでの次回の課題として行くようになるのではないかしらと思う。

6.18記 S.

第3回

日時 7月2日(水)

出席7名 欠席 S.R., W.R.

●手袋人形をつくってみて

3地区ともグループ製作でなく、各自で作ってみて、子供にみせた。

Y.R. 男の子のせいか余り興味を示さず、姉さんの方が関心があった。外あそび中心だったためもある。

K.U. 大変喜んだ、毛糸であんだのだが、うまくいかず、頭が三角だから丸くしてくれ、足をつけてほしいなど注文も多かった。私が何かしようとするとかイジウとかオバケとかいってよろこんだ。

O.Y., T.A. 時間がなく、やらなかった。

I.S. 大変よろこんだが、すぐあきた。

M.S. 赤ちゃんの時のくつ下を利用して、人形をつくり七面相をしてみせた。服をきせたり、大変なよろこびようだった。2日間はそれであそんだ。

●創造あそび

われわれのグループ(今回は地域グループをくずしたグループ)は、牛乳運びおさる電車と連結電車をつくる。

●次回 おやつ作りについて

家庭で与えているおやつしらべ

市販品

せんべい、アイスクリーム、スナック、ビスケット、アメ、果物

手作り

プリン、ホットケーキ、しら玉、アイス、ドーナツ、シュークリーム、ケーキ類

どんなものを習いたいか

簡単にできるおやつ、パン、クッキー

与えている時間

10時、3時の2回間食の人は1人

他は3時だけ あそびに夢中の時はスナック類をもって外であそび乍らという事になる。

<リーダーの感想>

創造あそびは大変たのしそうだった。バラバラグループにしたのも、効果的だった。お母さんの中で附属についている車や、景品の人形などたくさんおもちになった方があり、簡単にそれを使用されていたが、創造ということからは余り感心しない。

オヤツは各家庭、手づくりが多く甘味が少なく殆んどの人が、3時だけにしているようで、感心しました。

7.2記 S.

第4回

日時 7月16日 おやつづくり

出席5名

実習 ①泡雪羹 ②シュークリーム ③ヨーグルトゼリー ④ミルクセーキをY先生の指導で作る。

展示 ①大学芋 ②かきもち ③ホットケーキ ④ゼリーパンチ

<リーダーの感想>

お母さん方は大変たのしそうでした。

全体に糖分が多かったように思います。泡雪羹も、ヨーグルトゼリーも思い切って甘味をへらしても充分味わえるのではないかと思います。

7.16記 S.

第5回、第6回はセンターからの通信学習

第7回

日時 9月3日(水)

出席7名 欠席 S.R., Y.R.

●遊びの工夫についての話しあい。

1. 工夫されたあそびについて

○外であそべるもの

○ひこうきをつくる

○しゃぼん玉

○あきかんのゲタ

○紙ひこうき

○砂あそび、プールあそび

○内であそべるもの

- パズル, ぬり絵, 粘土
- 人形あそび (つみ木で家など作った)

○遊具 買った物

- 虫かご
- パズル 本
- つくったもの
- 自動車 (あき箱を利用)
- ピンポンパンの工作
- 広告紙でお面

2. 家庭でのしつけ

○この夏すすめてみたこと

- 排便を一人でする・始末も
- あそんだ後のかたづけ
- 着替え, 歯みがき
- 短時間の留守番をさせること
- あいさつをすること
- ハイの返事を言えること

○実際にすすめてみて

出来たこと 短時間のるすばん

あいさつ

あとかたづけは気分によってする

はみがき

出来なかったこと 排便の始末 あとかたづけ

※グループ発表はM. S. さんにする

●遊びの工夫についてグループでこれらをまとめながら話合う。

3地区ともひとりで排便の出来るまで, 或はズボンや履物を横から出来るまでと, 偶然に同じ問題に取り組んでいた。あとかたづけは, 3グループとも, 思うようにはかどらず, 結局オモチャが多すぎるのではないかということで反省していた。

3. グループで話し合ったこと

狩場地区のみ2回の集まりをもった。

○とりあげたもの

- オモチャの使い方及び始末
- 読書会を8月から始めて, 今後も週1回続けること。
- 他人の物を大切にすること。 以上

<リーダーの感想>

長かった夏休みでお休みしないようにと2~3日前から各グループ, 又個人的に電話して, 欠席者の少なかったのは何より, それぞれ, 小さくても, 目的をもった夏休みで, みんな励み合ったようでした。グループでの話し合いは一グループのみで他のグループの意見がきけず残念にも思います。

猛暑つづきの割には親も子も元気で, 子供達が随分大きくなったように思いました。 9.3 記 S.

第8回

日時 9月17日(水)

出席者7名 欠席 Y. R., I. S.

●全回を通して疑問をだしてもらう

○外遊びが多くなったがゆうかいについてどのような注意の与え方をしたらよいか

●今後のグループの進め方を説明, アンケートに記入, 話しあい乍ら進める(付6, 参照)

1)

- ① だいたい話し合いをして行きたいという考えだった。ただあまり固定したグループはかえて, 大勢の友を得られなくなる恐れもある。だれとでも親しくするという考えからだと, 固定したグループは作りたくないという意見も出た。
- ② 出来る丈近い方が望ましいという方が多かった。
- ③ ①と共に考えた。

2) 方法について

- ① 特にいまのグループでということより, 新しいグループでという考えの方が多いが, 自分から進んで作るという意識はないように思えた。来年幼稚園に行けば, グループは変化してくるという意見に対して, 幼稚園に入れなくても健康で誰とでも仲良く遊べればいいという事で入園をどうしようか考えているというお母さんもいた。
- ② 声をかけることは出来るは, 全員
- ③ 自宅の提供もよいという人は1人, まわりもちでどうかと, 言葉をはさむ。社宅住まいの方から, グループという必要性も充分わかるし, 自宅も提供するが何かとやりにくい面があると, ひとこと。
- ④ 特にない。考えておいてほしいと説明する。
- ⑤ 代表者という言葉が気になったのか, 消極的なうけとり方だった。

<リーダーの感想>

お母さん方の成長を感じた。『子供を間において眺められるようになり, 今までイライラしていた気持ちが何かおかしきような気がする』ということを書きいて, 実際に話をききながら多少なりとも与えられた課題にとり組む。センターへくるには, やはり緊張もあったことと思う。それらのことが, 自分を厳しくし実りあるものにするのだらうと思う。最初のグループの日のお母さんの顔と最後の日のお母さんの顔と, 随分ちがうように思えた。 9.17 記 S.

このグループで修了証をもらえなかった人, 2名

IV 質問紙による意見調査

(1) 「子どもの理想像, 学級にのぞむこと」

学級に参加してすぐのアンケートである(付4参照)

a. どういう子になってほしいか。

母親のこゝばを生かすために、無理にまとめずに、性格、社会性、健康、能力にわけて回答をあげてみるとつぎのようになる。

(性格) 34

明るく素直な子	13
自主性のある子	7
思いやりのある子	4
やさしい子	3
積極的な子	3
大らかな子	2
ユーモアのある子	1
気だてのよい子	1

(社会性) 13

誰とでも仲よくあそべる子	5
他人に迷惑をかけない子	3
責任感のある子	3
社会性のある子	1
正義感のつよい子	1

(健康) 11

健康な子	7
たくましい子	2
元気な子	2

(能力) 3

創造性のある子	1
ねばりづよい子	1
集中力のある子	1

以上でみるように性格に関する回答がもっとも多く、なかでも「明るく素直な子」の回答が多い。自主性のある子、積極的な子(10名)より、素直でやさしく気だてがよい子(17名)が多くのもまれていた。素直というのは親にとって扱いかやすい子に通じている。幼稚園などの母親のアンケートでももっとも多いのが「素直な子」である。つぎに社会性に関する回答が多く、友だちあそびをはじめた3歳のわが子に対する母親の目が感じられる。

b. 子どもについての心配

(対人関係)

内気、消極的	7
友だちとあそべない	3

親からはなれない	1
ひとりあそびができない	1
さびしがりや	1

(性格)

泣き虫	4
乱暴	2
怒りっぽい	2
強い情	1
おちつきない	1
のろい	1
神経質	1

(生活習慣)

偏食、小食	4
しつけ(排尿、食事)	4
くせ(爪かみ、指しゃぶり)	2
左利き	2

c. 学級にのぞむこと

はじまってすぐなので、あまり多くの意見がきけなかったが、つぎのように、子どもに関することが殆んどであった。

- 子どもへの客観的なアドバイスをしてほしい。
- 皆と仲良くあそべるように
- 親子のできる体操、遊びを沢山知りたい
- 新しい遊びの研究
- 幼稚園の準備として集団あそびの経験を
- ひろくみんなと話したい

(2) 「学級に参加して」

学級の半分が終わった時点でのアンケートである(付5参照)。各質問ごとに回答の多い順にまとめてその傾向をみるとつぎのようになる。

1. 地域グループで参加して、いかがでしたか。

肯定的な回答としては、「自分の子を客観的にみるこゝとができた」「他の母親と知り合え、意見が交換できた」「子ども同志が遊べるようになった」、否定的な回答として「他のグループの母親と交流がほしい」「グループの人数が多すぎる」「グループとしての発展がない」をえた。

2. プログラムの内容について

「子どもの遊びに関心をもつようになった」「叱り方の反省」「子どもの個性を理解するようになった」など、学級のプログラム内容から得たものとして、子どもの扱いかい、しつけに関するものが多い。プログラムへの要求としては「託児室の子どもの様子をみたい」「全体の時間が少ない」というものが多かった。

3. 子どもへの影響

「子どもが成長した」「集団あそびをして自信をもった



ようだ」「自立してきた」「絵をかくようになった」と学級参加による子どもの成長ぶりがあげられている。

4. その他、学級にのぞむこと

「話しあいの時間が少ない」「質問時間が少ない」「今後も学級をつづけてほしい」などの学級への要望がだされた。

(3) 「学級終了に際して」

最終日に質問紙を用意して、グループ話しあいのなかで各自の意見をきいた（付6参照）。

1. 学級で学習したことをどう活かしていきたいか。

「グループで身近に集れるところで共同に子どもをみながらお母さん達と話しあいをしていきたい」12名。「センターでは遠いので自宅から15分位のところで学級のような学習の機会があればよいと思う」14名。殆んどが何らかのつながりをもって学習をのぞんでいる。

2. 学習や話しあいの機会をもちたいばあい

①いまのグループでつづけたい 8

②近隣の知りあいの人たちに声をかけることができる 11

③5～6人の集りなら自宅を提供してもよい 8

④近くに気軽に使える施設（町内会館、青少年の家、銀行、その他）があるのでそこを利用したい 11

⑤センター（相談員）の協力が得られるなら連絡代表者（代表者研究会を月1回センターで行なう）になってみてもよいグループでの要請があれば相談役がグループで訪問する 0

以上のように、学習や子どものグループをもっていくことはのぞんでいるが、センターで協力をしても、自分が代表者になろうとする母親はいない。

(4) 「学級終了後半年を経て」

地域に帰って学級でのことがどう生かされているか、省みて学級参加がどうであったかを質ねた（付7参照）。

I. 学級に参加したきっかけ

(1) a. 広報をみて 0

b. センターからの呼びかけ 5

c. 近所の人にさそわれて 10

d. その他 0

(2) a. 母親自身の勉強ができる 11

b. 他の母親につながりがもてる 3

c. 子どもが友だちと遊べる 5

d. その他 0

II 学級への評価

(1) 学級に参加して

a. よかった 13

b. どちらともいえない 1

c. 期待はずれ 0

III 学級のメンバーの編成について

(1) 地域のメンバーと参加して

a. よかった 14

b. 具合わるい 0

(2) 地域別グループの分け方

a. よい 9

b. 不満 3

(3) グループのリーダーは

a. 必要である 13

b. 必要ない 0

(4) グループの人数

3～4人 2

5～6人 6

7～8人 4

10人 1

IV 学級の内容と運営

(1) プログラム

a よかったこと 講演 6

おやつづくり 3

おもちゃづくり 1

健康づくり 1

b 不満 時間が足りない 2

体を動かすあそびがほしい 1

(2) 学級のすすめ方

a. グループの話しあいがよい 8

b. なくてよい 5

時間があればグループの話し合いは

a. 必要 12

b. 必要ない 1

(3) 開催日時

時期 a. よかった 9

b. 別の時期がよい 5

期間 a. 短期間に集中がよい 4

b. 丁度よい 9

c. もっと間隔あけて 1

回数 a. 少なすぎた 8

b. 丁度よい 7

c. 多すぎた 0

時間 a. 短かすぎる 1

b. 丁度よい 14

c. 長すぎる 0

V 託児について

(1) 託児設備があつて

よかつた点	子どもをみる人が多く安心	6
	話し合いに身をいれて参加できた	5
	子どもを客観的にみられ勉強になった	2
	おもちゃ遊具が多い	1
	母と子が離れる機会がもてた	1
	下の子どもみてもらえた	1
困る点	面倒みがよくすぎ、母にも作れとせがむ	
	下の子が親から離れない	
	トイレが遠い	
	すぐに親のところへきた	

(2) お子さんへの影響

よい点	集団あそびの楽しさを味わつた	6
	人見知りしなくなった	5
	子どもに自信がついた	2
	絵、工作に興味をもつた	2
	母と離れることができた	1
	うがい、手洗いでできるようになった	1
	先生への親しみもてた	1
困る点	泣き虫で困つた	1
	他の子にけがさせないかと心配	1
	終了後もセンターへいきたいとせがむ	1

}	挨拶程度	2
	時々話しあう	7
	よく話しあう	3
(3)	母親同志の集り、もっているか	
	a. もっていない	10
	b. 学級と関係ないサークル	0
	c. 学級参加したメンバーとのサークル	0
	d. 学級参加者が中心となつて作ったサークル	5
(4)	母親のサークル	
	a. 参加していききたい	11
	b. 参加できない	3
	c. 参加したくない	1

以上紙面の都合で叙述的回答を除いたが、学級に参加しての感想は、「みなとの話しあいによってひとりで見守られている不安がとりのぞかれた」「子どもを客観的に観察する機会をえた」「自分の育児法の間違ひがわかつた」「育児に自信がでてきた」など母親の不安をとりのぞいて効果のあつたことが明らかであつた。また「子どもがいきいきとあそぶ姿をみて自分もしあわせを感じた」「親とはなれてあそべると思つてもみなかつた」「子どもが自分のことを、自分でするようになった」など、子どもの成長を喜ぶことばが多かつた。地域での連りに実際に成功している地区の母親たちは学級の経験を生かして地域にひろがりをもつ活動をもつたことに自信をえている。母親たちだけでなくセンターの指導があつたからこそ成功したことをのべている母親も多かつた。

V 地域の活動へのひろがり

学級の4グループのうち、よつばグループが10月上旬K地区、ひまわりグループが10月中旬T地区において地域のグループづくりを発足させた。いずれもセンター側の主事および相談員が新しいグループの組織と運営の相談にあづかり、力添えをしている。現在(51年3月)までの活動状況をT地区の記録をたどりながらみると、つぎようになる。

港北区T町ぼっぼの会

1. 沿革

子どものすこやかな成長を願う、若いお母さんたちがお互いに協力して自己啓発をはかり、家庭教育を向上させるための学習活動の場として誕生したグループである。

VI 母親の交流について

(1) 学級参加前の近所のつきあい

a.	知りあひない	
b.	挨拶程度	7
c.	時々話しあう	10
d.	始終いききしている	5
e.	サークル活動していた	2

(2) 学級参加後

a.	その後のつきあひがない	1
b.	つきあひがある	14
	{ 同グループの人	11
	{ 他グループの人	1
	{ 学級で知りあつた	1
	{ 以前からの知りあひ	5

(1) グループづくりのきっかけ

母体となったのは昨年6月～9月にかけて開かれた本センター主催のてのひら学級（乳幼児家庭教育学級）にT町とその近辺から参加して、ひまわりグループを作り学習を積んだ7人の学級生である。

学級で得たものを地域へ持ちかえり、身近な人々へ活動の輪をひろげていくことを願うセンター側の期待にこたえて、近所の人にも呼びかけ当初22名のメンバーで10月中旬発足、途中で2人増え3月末まで活動を続けている。

(2) メンバーの構成 (24人)

<年齢>	20歳代	18人	30歳代	6人
<子ども数>	1子	12人	2子以上	12人
<家族>	核家族	22人	複合家族	2人
<住居>	独立家屋	21人	アパート	3人
<出身>	地元	2人	他所	22人

(3) 地域環境

港北区の南部に位置し、国電横浜線小机駅から徒歩5分山沿いに住宅が集まっている。都市化のすすむ横浜市の中では開発立ち遅れの様相も見られていたが、東神奈川から川和方面に向う幹線道路の幅員拡張及び横浜線の複線化に伴い、昭和43年頃は500戸に満たなかった同町自治会も、現在は約1,000世帯、民間アパートも70棟を数える。

居住者のほとんどはサラリーマン家庭で、また核家族が多い。町内の犯罪、交通事故件数は比較的少なく大気汚染の心配もなく、人情は素朴、刺激の少ない土地柄といえよう。自治会はほとんど地元の人で運営されている。公民館借用に関しては社会教育の学習会を理解され役所に好意的に受け入れてもらっている。

(4) 文化施設

市立小学校(1)幼稚園(1)公民館(1)病院(3)その他、田んぼの埋立地にスーパー、商店などと、中小工場が数社散在している。

2. 組織と運営

メンバー数が多いので、連絡をとりやすいように居住地域別に3グループと、小さい子(ベビー)の1グループあわせて4グループを編成している。

企画会議、毎月の学習会は3グループ(除、ベビーG)のメンバーが役割を担当し、協力して合同で開く。

(1) グループの構成

(2) 役割 (次表の通りである。)

ア. リーダー 各グループ1人、1か月交替(会を2回担当)グループ内をまとめ、他のグループとの連絡など。

名称	グループ名	メンバー数	子ども数	グループの状況
ぼ っ ぽ の 会	ひまわりグループ	5	8	町の南側で山の斜面と接す。日常は特定の人以外とは会うことが少ない。地元出身と2人(2児、3児の母)が積極的。
	たんぽぽグループ	9	14	てのひら学級生5人、北側の山上の住宅ままとまっている。子どもたちは一緒に遊んでいるが、母親は交流がない。役割などは各人が適当にこなす、教師経験者1人
	ちゅうりっぷグループ	6	9	てのひら学級生2人、隣接小机町住民5名。日常、母子共に交流が密でチームワークがよい。学級生が中心になっている、保育経験者1人。
	ベビーグループ	4	4	子どもが小さく、合同保育が不安だった1子(1歳児)の母。保育経験者1人
計		24	35	

イ. 係の仕事 各グループのメンバー全員が三つの係を担当して毎回交替する。

- ① 企画係 事前に学習会の内容、準備することなどを打合せ、当日は司会、進行、記録をとる。
- ② 会場係 受付(会費集金、名札)子どものおやつと給食の準備をする。
- ③ 託児係 保育室に玩具を備え、開会中は保育をする。(会場の後片付けは、企画と会場係がする)

(3) 経 費

○ 運営費 毎回50円(教材、暖房、救急衛生品代)

○ おやつ代 毎回50円(子ども1人分)

3. 学習活動

- (1) 学習のシステム(事例・第2回ぼっぽの会)(別図参照)
- (2) 会合 月2回 第1、第3金曜日
- (3) 時間 午前10時～12時(ベビーグループ:午後1時30分～)
- (4) 場所 烏山公民館(無料)
- (5) 用意するもの(子ども) コップ、お手ふき、ポリ袋(おやつ入れ)
- (6) 備品 童謡カセットテープ、絵本20冊、ダンボール(大)3個、ままごと(廃品利用)ボード2本、救急箱、記録・会計ノート

(7) 内容

回	月日	テーマ及びすすめ方	出席者	
			母	子
1	10/17	地区グループのすすめ方。地域活動の趣旨、役割、学習方法。(センターより主事1名、相談員2名、託児一外部より3人)	19	25
2	11/14	おもちゃの手づくりとあそび T先生：遊びのコーナー作る。(製作、絵本、ままごとコーナー)	19	25
3	11/28	家庭教育、育児について話し合い。(託児)折紙の作品を飾ったクリスマスツリーを作る。	18	24
4	12/5	子どもの遊びについて話し合い：T先生。集団あそびの指導(全員)。アンケートとる。(いままでの感想今後への要望)	13	18
	51年1/16	ちゅうりっぷグループと懇談。アンケートの集計報告、メンバーのプロフィール、考え等をきく	6	8
	1/23	ひまわりグループと懇談。鳥山町内の話、その他は前回と同じ	3	5
(1)	1/27	ベビーグループ作る一地区活動の趣旨。他のグループの学習状況説明、新年度の編入をすすめる	3	3
5	1/30	新春カルタ会(2歳以上のカルタとりの出来る子)遊ぎと歌、集団あそび(小さい子)全員いっしょに	16	20
6	2/13	あみもの一子ども用ミトン製作(託児)紙ふうせんで遊ぶ(メンバーの小出さん指導：時間不足のため、後は個人的に教えてもらう。)	10	18
7	2/27	おひなさま(折紙で内裏さまを作り台紙に張る)全員いっしょ。壁に落がきをした子どもたちに注意する。	10	18
8	3/19	遠足(お弁当をもって公民館の裏山)お別れ会。母親クラブの申請について協議	11	18
9	3/26	家族計画と家族の健康(港北保健所：Y先生)ベビーグループも参加 託児一外部より1名	22	30

「ベビーグループ」

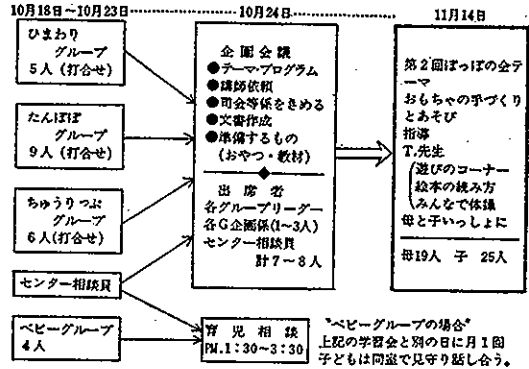
	12/16	しっかり歩けない1歳児だけのグループ作りの相談	2	1
(2)	1/26	育児相談(体温、衣服、虫歯、内反足など)	3	3

4. メンバーの声

(1) 参加した目的

- 育児の情報交換、学習をしたい。
- 家庭教育について、しつけ全般、年齢に応じた扱い、父親の育児方針、子どもにキーキーいわれる。
- 核家族なので話し合う場所がほしい。
- 母と子共に成長したいので。
- 入園前の不安がある。

〔○学習システム〕



(2) 活動の中から

- 会合のある日は、朝から忙しいが充実感がある。子どもも集まりを楽しみにしている。
- 託児の学習をして、おおぜいの子どもへ目をむけることができた。
- 子どもの新しい面、玩具の素材を発見した。
- 多くの人と知り合えて友達になれたことがうれしい。
- 独立家屋の場合、近所との付き合いが少ない(居住して日が浅い) アパートの人たちの中には入りにくい。
- (3) 退会者
  - 妊婦へ生れる子が大きくなったら又入りたい。グループの人数が少なくなるので適任者を探している。
  - 都合のよい時は手伝うので参加させてほしい。

5. 今後の運営について

- (1) 会の規約を作り文書化する。
- (2) 企画会議、集金事務の合理化を考える。
- (3) 会場は他の人の迷惑にならぬよう使用時に注意する。
- (4) メンバーは会の趣旨をよく認識理解した人だけ入会してもらう。

以上はT地区の例であるが、K地区でもほぼ同じ経過でグループづくりがおこなわれている。K地区のばあいは、途中で母親同志の感情的もつれがありセンター側の相談員がなかだちし、その後も指導をつづけている点がT地区とちがう点である。なお、家庭学級で地域でのグループづくりに発展しえなかったのは、社宅などで母親同志が人間関係をわづらわしがる地域であった。T地区、K地区のグループはそれぞれ地区の母親クラブ組織へと定着しつつある。

VI 考 察

昨年度は当研究所で「母親クラブの効果的な組織および運営の方法に関する研究」がまとめられた(紀要第11集)。ここでは地域の既成の組織である母親クラブについて、質問紙と面接による調査により組織と運営の検討がなされた。本研究では、新しく母親の地域組織をつくって行く過程、つまり、母親の組織づくりを指導的立場をとりながら内側から検討をおこなったのである。

(1) 3歳児の母親を対象としたのは成功であったといえる。幼稚園就園前の年齢で子どもの友だちあそびをのぞんでいる母親が多かったこと、おなじ年齢の子をもつ母親、第1子が同年齢ということ話しあいの共通の場がもてたことによる。また、アンケートや話しあいのなかで母親の関心事の第一は子どものしつけや教育に関することであることも明らかであった。グループづくりの動機づけとして、子どもを中心にするのがのぞましいといえる。

(2) 地域で3~4人のなかまをさそって学級に参加する方法は、地域での組織づくりに効果的であった。また、地域の3~4人を2~3組あつめてグループをつくったことはさらに効果をつよめたといえる。学級へきての話しあい、往復の途上での子ども同志のつながりと母親同志の交流がもてた。また、グループ単位の宿題(ホーム学習)のため義務的に学級開催中互いに打合せをおこなわなければならないことを通して、母親のつながりをさらに強めることができ、地域でのグループづくりの土台となっていくといえる。

(3) 母親たちは地域でのつながりを強くもつめながら、自分が中心になることは誰もものぞんでいない(アンケート調査③④)。また人間関係のわずらわしさから講義をきくだけを望む母親も多い。したがって自主的なサ

ークル活動はなかなか育ちにくいといえる。この点、乳幼児家庭教育センターが母体となり、相談員を通して指導したことは地域の組織づくりに大きな役割をはたしている。これまで各地の母親グループを育成してきた経験を生かしたセンターの指導は適切であったといえよう。しかし、適切でありすぎたために母親が依存的になり、センター側としては過保護にすぎたのではないかとという反省も出されたのである。すなわち、第1回の試みであっただけに協力部分が多すぎたきらいもある。地域活動の運営に支障をきたしそうな事態の処置やプログラムの内容など母親同志で解決の努力をしてみたあとで援助することがのぞましいことが反省された。

(4) 母親学級開催中託児の世話をしたのはボランティアの母親である。この母親たちは自分の子どもはすでに小学高学年、中学生になっている。このように子どもの年齢層のちがう母親たちとの交流もまた必要であろう。なぜなら、同年齢の子のグループは集りやすいが、就園や就学を機として自然解消という形になりやすいからである。また、育児経験者たちと話しあいももてることは核家族の家庭が多い現在、母親たちにとって参考となることも多いにちがいない。母親学級に学んだ母親たちは自分の子を預かってもらいながら、自分たちが学習できたのである。将来、この経験を生かしてつぎの世代の母親たちの力になる地域活動ができれば、今回の学級開催、地域の組織づくりの試みは十二分に生かされることになる。

以上、未組織の母親たちが地域での組織をつくり、母親クラブへと発展していく過程を分析してみた。本研究は横浜市乳幼児家庭教育センターの実験的試みとしての一年間の活動をもとになされたものであり、センターの方々の熱意ある実践に支えられている。この実験にたづさわった方々に深く感謝の意を表したい。

付1

ホーム学習「私の子どもをみてみよう」

月 日 ( ) 時~ 時		天気 ( )		子の名前		記録者	
時間	ところ	なにをしていたか	なにを使って	ひとりで	友だちと	母と	その他
分							

付2

ホーム学習 遊びの工夫について

1) この夏の間グループで或いはお母さんが工夫された遊びを書いて下さい

外で遊べるもの ( )  
 ( )  
 内で遊べるもの ( )  
 ( )  
 遊具 {買ったもの ( )  
 {作ったもの ( )

2) 家庭でのしつけでこの夏ぜひすすめてみたいこと  
 (例 はみがき、あいさつ、のりものの乗り方など)  
 ( )  
 実際にすすめてみて  
 できたこと ( )  
 ( )  
 できなかったこと ( )  
 ( )

3) グループで話しあったこと  
 (例 テレビ-○○○をみて、本-○○○を読んでなど)  
 とりあげたもの ( )  
 ( )  
 話しあった感想 ( )  
 ( )

付3

ホーム学習 からだの健康を学習するために

1) 歯の健康について  
 どういったことに注意していますか ( )  
 ( )

2) 偏食について  
 食べものの好き嫌いがありますか (ある) (ない)  
 好きな食べものの傾向 ( )  
 ( )  
 嫌いな食べものの傾向 ( )  
 ( )  
 偏食をなくす工夫をしていることがあったらお書き下さい ( )  
 ( )

3) 講師の先生に特に質問したいことをお書き下さい ( )  
 ( )

付4

アンケート 「子どもの理想像・学級にのぞむこと」

1) どういう子になってほしいか ( )  
 ( )

2) 現在、お子さんのことで心配なこと ( )  
 ( )

3) 学級にのぞむこと ( )  
 ( )

付5

アンケート 「学級に参加して」

1) グループで参加して、いかにでしたか (グループの組み合わせ方も含めて)  
 a. よかった点  
 b. 気にかかる点

2) 話し合い、先生のお話で疑問として残っていること

3) プログラムの内容について  
 a. よかった内容 (参考にして実行していることがあったらそれも書いて下さい)  
 ( )  
 b. もっとこうしてほしいこと ( )  
 ( )

4) あなたのお子さんの様子について  
 (託児室に預けて気のついたことをできるだけ書いて下さい)  
 ( )  
 ( )

5) その他気のついたこと、学級にのぞむこと ( )  
 ( )

付6

アンケート 「学級終了に際して」

1) 学級で学習したことを、ご自分では今後どのように活かしていきたいと思われませんか。  
 ①グループで身近かに集まれるところで共同で子どもをみながら、お母さん達と話し合いをしていきたい ( )  
 ( )  
 ②センターは遠いので自宅から15分位のところで、学級のような学習の機会があればよいと思う ( )  
 ( )  
 ③その他 ( )  
 ( )

2) なんらかの方法で話し合い、学習の機会を持ちたい場合に……  
 ①いまのグループで続けたい ( )  
 ( )  
 ②近隣の知り合いの人たちに声をかけることができる ( )  
 ( )  
 ③5~6人の集まりなら自宅を提供してもよい  
 ④近くに気軽に使える施設 (町内会館・青少年の家・銀行その他) があるのでそこを利用したい ( )  
 ( )  
 ⑤センターの協力が得られるなら連絡代表者になってすすめてみてよい

付7

アンケート 「学級終了後半年を経て」

「てのひら学級」が終ってからもう半年になります。学級に参加なされたことがお役に立っていますでしょうか。こんごの学級の進め方の参考にもさせていただきますので、御遠慮ない御意見をおきかせ下さい。無記名でも結構です。

○該当するものを○印し、( )内には記入して下さい。

I 学級に参加されたきっかけ。

- (1) a. 広報( )をみて b. センターから呼びかけがあった c. 近所の人にさそわれた d. その他( )
- (2) a. 母親自身の勉強ができるから  
b. 他の母親とつながりがもてるから  
c. 子どもが友だちとあそべるから  
d. その他( )

II 学級への評価

- (1) 学級に参加して……  
a. よかった b. どちらともいえない  
c. 期待はずれ
- (2) とくによかったことはどんなことですか ( )  
不満だったことはどんなことですか ( )

III 学級のメンバーの編成について

- (1) 地域のメンバーと参加して  
a. よかった b. 具合わるい (理由) (理由)
- (2) 地域別グループのかけ方  
a. よい b. 不備 (理由) (理由)
- (3) グループのリーダーは  
a. 必要である (主催者側のリーダーがよい、母親の中からえらんだ方がよい)  
b. 必要ない (その理由)
- (4) 学級の人数と編成  
ひとつのグループ( )人位で( )組のグループが適当である

IV 学級の内容と運営について

- (1) プラグラムで  
a. とくによかったこと( )  
b. 不満だったこと( )
- (2) 学級のすすめ方  
a. グループの話し合いがよい ( )  
b. なくてもよい ( )

時間があればグループの話し合いは

- a. 必要 b. 必要ない

(3) 開催日時

時期 a. よかった b. 別の時期がよい( )月頃, その他理由 ( )

期間 a. もっと短期間に集中した方がよい  
b. 丁度よい c. もっと間隔がある方がよい

回数 a. 少なすぎた b. 丁度よい  
c. 多すぎた

時間 a. 時間が短かすぎる b. 丁度よい  
c. 時間長すぎる

V 託児について

- (1) 託児設備があったので母親として……  
よかった点( )  
困った点( )
- (2) お子さんへの影響  
よかった点( )  
困った点( )

VI 母親の交流について

- (1) 学級参加前の近所の母親とのつきあい  
a. 知りあいない b. あいさつ程度( )人位  
c. 時々話しあう( )人ぐらい d. 始終いききしている人( )人 e. サークル活動をしていた(内容)
- (2) 学級参加後  
a. その後つきあいが無い  
b. つきあいがある (①同グループの人, ②他グループの人) (①学級で知りあった②以前から) (①あいさつ程度 ②時々話しあう ③よく話しあう)
- (3) 母親同志の集りを  
a. もっている  
①学級と関係ないサークル(内容)  
②学級参加したメンバーとのサークル(内容)  
③学級参加者が中心となつたサークル(内容)  
b. もっていない
- (4) 母親のサークル  
a. 参加していききたい b. 参加できない  
c. 参加したくない

(aの理由)

1. 母親自身の向上のため
2. 他の母親とつながりをもつため
3. 子どもの友だちをつくるため
4. 地域の子どもたちに役立ちたい
5. その他( )

(bの理由)

1. 忙しい( )
2. 将来は参加したい( )
3. その他( )

(cの理由)

1. 人間関係がわづらわしい( )
2. その他( )

VII その他御意見, 御感想などお寄せ下さい。

( )